

私心なかりしか

まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン
「今日のフォーカスチェンジ」第2860号
(2011年8月29日発行)より

子どもたちの表現指導は20年近くになりますが、一般のひとも含めて表現やコミュニケーションのワークショップを全国展開しようと思ったのは、2004年です。

おかげさまで、いまでは全国各地で、ワークショップをひらかせていただけるようになりました。そして、3年前にスタートした『『聴く』を磨く』講座は、私にとって、ライフワークのひとつになりつつあります。

私の自負は、私のワークが、私自身の体験をもとに積み上げてきたものだということ。たとえば、コミュニケーション不全だった、小学生時代の体験。自分のことを受け入れることのできなかつた、10代から20代にかけて(それ以降も?)の体験。そして、インプロ(即興演劇)などと出会って、自己解放と自己開示の方法を模索してきた体験。

そのプロセスでは、さまざまなセミナー

や講座に参加したり、本などで学んだりもしましたが、不思議と、師匠とおおぐひとは、みなさん、「一匹狼」で(笑)、組織とは、とんと縁のないまま、今日までできました。そしてそれゆえに、「かめわざ」なんていう名前で、仕事をさせてもらっているわけです。

それはそれで、身軽でいいなと思っただけなのですが、最近、ふっと、あせりを感じるがあります。ワークや講座のごたえは充分に感じていて、自分のやっていることの意味や意義も確信できますが、個人でやる仕事にはどうしても限界があります。どんなにがんばっても、出会えるひとの数にはかぎりがあります。

もっともっと、多くのひとと、この体験をわかちあいたい。もっともっと、多くのひとが、自分をみとめ、受け入れ、自分らしく生き生きと生きるプロセスを応援したい。でも、いま自分にできることはあまりにもかぎられている。人生はまだなかばだけれど、有限であることにかわりはなく、いつ終わりがくるか、わからない。それまでに、どれだけのことができるのだろうか…。それが、私のあせりなのです。

それで、最近思いきって、ワークに参加していただきたかたに、こんな声かけをさせていただくことにしました。「もし、私のワークがあなたのちからになれると考えていただけるなら、あなたの会社や地域などで、研修の企画があったとき、よかつたら声をかけてくださいませんか?」と。

なんだか、宣伝の押しつけをするようで、言い出すのには、最初、勇気がいりました。でも、何度も自分のところに照らして考えました。何のためにそれを言うのか?と。

そんなとき、いつもこころにひびいたのが、稲盛和夫さんのこのことばです。

「動機善なりや、私心なかりしか」
動機はまことから出ているか? 私利私欲から発したものではないか? 私なりの解釈です。そして、それにイエスと言えると、思えるから、勇気を出して、伝えることにしました。

今日、ここでもあらためて書かせていただくことにしました。私のワークが、私のメッセージが、あなたのちからになれると感じていただけるなら、どうぞ使って

ください。そして、あなたのまわりで、チャンスがあるときには、どうぞ、声をかけてください。

私が、自分の人生をかけて積み上げてきたこの仕事を、あなたがよりあなたらしく生きることに役立ててください。あなたのまわりのひとが、より生き生きとそのひとらしく生きることに使ってください。そんな機会を、私にあたえてください。

そのために、私は、私の有限のいのちの時間を、全力で燃やします。それが、私がこの世に生まれてきたことの意味だと思うから。

その思いをあらたにし、勇気をもって、発信します。あなたのこころにつながることを願いながら…。

●日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」(かめおかゆみこ編集・発行)は、**2003年11月1日**創刊。**2011年6月、2800号**達成。3秒で読める携帯版もあり。無料講読は「かめわざ快心塾」から♪

<http://kamewaza.com/>